



本市は国際認証制度であるセーフコミュニティ認証の取得を目指しています。

セーフコミニユニティいすみおおつ

第
11
回

第6回 分野別対策委員会を開催しました



初の単独形式で
対策委員会を開催

4月17日から21日にかけて第6回分野別対策委員会を開催しました。

初の単独形式で6つの対策委員会が行われ、日本セーフコミニユニティ推進機構の白石陽子代表理事、今井久人専務理事に指導をいただきました。

今回は、前回考えた対策委員会としての重点課題を確認し、課題の解決のために「誰に、何をしなければならないのか」を検討しました。

犯罪防止対策委員会では、防犯に対する意識をどう高めていくかといった意見が出たり、他の委員会では、対象を検討するにあたっては、さらに詳しいデータが必要であるとの意見が出されるなど、委員の皆さんは、これまでのワークショップでの成果や、各団体、職場での経験を語り合いながら、議論を進めました。



ラッピングカーの後部に
セーフコミニティのマークを
あしらっています

市では、おづみんのイラストや「日本一の毛布のまち」をデザインし、本市をPRするラッピングカーを制作しました。同時に、セーフコミニティの取り組みをより多くの皆さんに知つていただくため、ラッピングカーにセーフコミニティのデザインも盛り込みました。

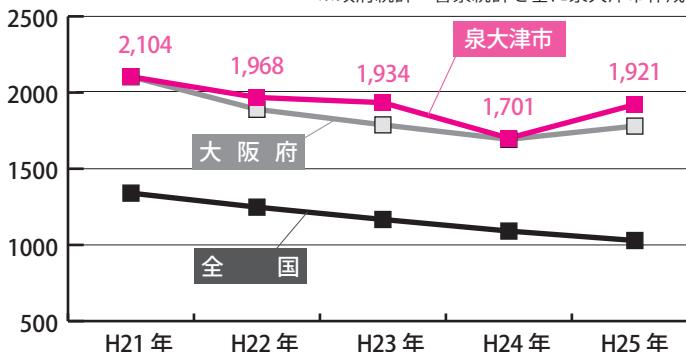
SCをPR!
ラッピングカーで



第6回対策委員会の様子

■ 人口10万人あたりの刑法犯認知件数

※政府統計・警察統計を基に泉大津市作成



警察統計からみる人口10万人あたりの刑法犯認知件数では、本市は全国や大阪府に比べて多く、アンケートにおいて市民が不安に思う事項では、「犯罪被害」は上位にあることなどから、犯罪防止を重点項目として、本委員会が設置されました。

「犯罪防止対策委員会」は、自治会連合会や防犯委員会、更生保護女性会など14人の委員で構成しています。

**対策委員会のご紹介
「犯罪防止対策委員会」**

具体的な課題設定の段階にきました

対策委員会も全体でのワークショップがひと段落し、各対策委員会で具体的な課題の設定や取り組みに関する検討が始まりました。ワークショップで出てきた課題について、既存の取り組みを活用しつつ効率的・効果的に進められる取り組みを考えています。委員のみなさんは日ごろから安全向上に熱心に取り組んでおられる方たちということもあります。話し合いも活発で、今後、どのような取り組みが始まるとかが楽しみです。

JISC 代表理事
白石陽子氏のコメント

